

## 「日本語学習支援ネットワーク会議 2024 in 宮城」 参加学生の声

2024年12月1日に「日本語学習支援ネットワーク会議 2024 in 宮城」が東北大学川内南キャンパスを会場に開催されました。東北地域を中心に地域の日本語教育に関わる方々133名が集まり、情報共有を行いました。北海道・東北地域の学生たちも参加し、ブースセッションで自分たちの実践について展示するだけでなく、その他のプログラムにも参加しました。この会議に参加しての彼らの学び、気づきをご紹介します。

ポスター発表では、他大学の学生や、地域日本語教育で活動されている方々にもブースに訪れていただきました。様々な視点からの意見を伺い、自分自身の実践の改善点が見えてきました。また同様の取り組みをしている方々と情報を共有する貴重な機会になりました。おおさき日本語学校のお話では、公立の日本語学校を設立するために、審査を経て現在に至るまでの経緯について詳しく知ることができました。少子高齢化が進む中で、外国人材の確保に取り組む宮城県の姿勢は素晴らしいと思います。大崎から世界へ向けての発信がどんどん進むことを楽しみにしています。最後のディスカッションでは、年代も所属も超えた方々と、現在抱えている課題などを共有しました。特に、留学生が共同生活をする際の留意点について話すことができ、来月から始まる2週間の実習にぜひ活かしていきたいと感じました。現在多様化する日本語教育の現場で、今後、地域と学生とがつながっていくことの可能性が感じられました。(国際教養大学学生)



私にとって最も大きな学びは日本語学習支援の現状を知ることができた点です。宮城県でも MIA、SenTIA を中心に様々な支援が行われていました。確実に外国人が増加している中、支援を確実なものとしていくためにはまだ課題もあると思います。しかし、大崎市立おおさき日本語学校のように日本語学習支援のために動いている方々の努力が形になっていることも知ることができて、とても希望が持てました。個人的な話になってしまいますが、私は小学校の教師を目指しています。そんな私にとって印象的だったのはブースセッションでの「おむすび」さんの活動・実践紹介でした。様々な活動が行われていて、とても意味のある活動がされているのだと感銘を受けました。やはり課題となるのは学校現場での支援が十分に行き届いていないことでした。元校長先生のお話もお聞きし、改めて教師一人一人が日本語学習支援についての現状を知ることが重要だと学びました。宮城教育大学としてはオンライン日本語教室の活動を紹介しました。「学生のころからこのような経験をできるのはとても良い。」という意見を多くいただき、活動の意義を改めて感じることができました。まだまだ知識不足な点も多いので、今後も日本語学習支援に携わりながら多くのことを学び、将来教師としても支援をしていけるようにしたいです。(宮城教育大学学生)

「日本語学習支援ネットワーク会議 in 宮城」への参加を通し、東北の様々な地域を中心として、日本語教育に携わる方々と直接交流ができて、非常に充実した時間を過ごせた。特に、ポスター発表の場で得られた学びが多かった。やさしい日本語や複言語主義について特に関心を持っていただき、お話をさせていただく機会となった。参加者のみなさんからポジティブなコメントをいただいて、今後の日本語教育に対する学びの励みとなった。グループワークでは、年齢や職業を問わず、色々な人と「日本語教育」という同じテーマで語り合う貴重な経験ができた。日本語を勉強する外国人の数が増えてきたからこその課題や、日本語教室の理想と現実などについて対面で話し合えたことは自分にとって滅多にない経験だったため、とても楽しかったし勉強になった。北海道から参加した身として、このような場所や日本語教育の場が東北に限らず北海道や日本全国に広まって増えていけばいいなと思った。全体を通して、日本語教育への関心やモチベーションがより高まるとてもいい機会であったし、またこのような機会があればぜひ参加したいと思う。(北海道教育大学函館校学生)

おおさき日本語学校の先生や日本語学習支援団体の方から伺ったお話の中で特に印象に残っているのは、年々増えている外国人の受け入れ体制についてです。着々と準備は進めているものの、実際に活動してみないと見えてこないことや課題がまだまだ多くあると知りました。そして、さまざまな団体のお話から、地域住民との交流が重要であるということに改めて気づかされました。私たち学生も、ボランティア活動を通して日本語を必要とする人たちの手助けになれば良いと思いました。ポスターセッションでは、学生以外にも、日本語教育歴の長い方から初めての方、地域ボランティアの方のご意見を聞くことができました。年齢層も幅広く、日本語教育に興味がある人が非常に多いことが分りました。私たちの発表に対しては、たくさんのコメントをいただきました。新たな発見や気づきに繋がり、とても勉強になりました。今後のゼミでの教材作成に活かしていきたいです。(宮城学院女子大学学生)

今回のプログラムに参加したことで、立場や年齢、居住地域が違う様々な人と交流することができました。ポスターセッションでは、実際に介護の現場で働いている方から事例を聴くことで、私が行ったインタビュープロジェクトの課題がより明確になりました。また、質問にお答えするなかで、現場に入り込んでインタビューする必要性を強く実感しました。グループセッションでは、地域日本語教室に参加している方とお話し、地域日本語教室の実態を聴くことができました。私は今まで、地域日本語教室の存在を一括りに考えていたのですが、その運営形態や参加者の種類、問題意識は一様でないことを知りました。また、質の確保の問題や、教師と学習者の入れ替わりなど、具体的な問題に触れることができ、地域日本語教室への理解が深まりました。たくさんの人と交流することはとても楽しく、また勉強になりました。今後は自分も現場に入り込み活動したいと思います。(東北大学学生)

